

刊 夕 日 一

査査委員會の審理にて落著せず其の
判を高等土地調査委員會に申請せ
ざるは目下の所約四千件の多きに反
而等土地調査委員は三部に分れ且
木の三日に審理を急ぎ裁決をなし
ゝあるが尙ほ給出す云へば多分
在終了迄に一萬件を超過すべしと

調つる水びり
 如きも府及び支隊組合を合せて一隊
 所に置き支隊口には二名の巡視を配
 して案内の任に當らしむることゝす
 り議長以下所屬各係主任任命如次
 第一係長 山田 龍雄 警務課長 原野 大川
 第二係長 木村 健生 有財課長 長谷川 中
 新任目井第四十旅團長

日頃様主總會を開催すべし
藤澤參政官視察 内務省
參政官藤澤武之輔氏は視察の爲め四
月上旬 归来の途なり
●三本課長出發 日露總督會
議及び三線連絡減價會議列席の爲め

山元 ▲昨今の牛皮（内地方面に於ける在庫量の影響にて一時四十圓空まで下落し居る）の軍務を檢閲すべし

駐劄に改稱の旨通牒ありたり
 ▲鈴木長北官著任 壓北道長官
 に著任を命せられたる前忠北道長官
 鈴木隆氏は三十一日午後四時五分大
 阪驛の列車にて著任一日一先づ前
 任地へ出發す
 ▲會津道路開通式 昨年十二月以來

露軍の逆襲―佛軍頑強に阻止す

浦鹽航路殷賑
浦鹽航路は本年開水
朝鮮郵船會社の浦鹽航路は本年開水

府事務の改善
二課制度の實施

され、カスの上二節の下に其の旨を專屬せしめ、執務を専門的に區分したれば事務の處理上頗る敏速を見る

● **朝鮮總會期** 朝鮮郵船會社にては來る十五日取締役會を開き

▲土井前院長の寄附 前平壤覆審法院長土井庸太郎氏は先般退職に付、分館町の元派遣遺囑司令部跡を襲用する分館町の元派遣遺囑司令部跡を襲用する

上林散太郎氏(國興炭礦會社長) 一(目東京)
田發
藤原水産課技師、同上
沼本登吾(轉總甘府醫院) 同上

て御坐います。所が光園は御前様より西山公と云はれるのが、却つて五月に獨く思召し、袴を押へ、ヒョイツと靴を御覽になる、途端に頭取袋の中より、例の味噌漬の茄子がゴッポリと轉り出したから、オヤツツと思つて一つ御拾ひになると、又一つ勢餘り出し、二つ拾へば又三つ、片手で茄子を拾ひながらも、若しや後方から老婆が來やしないかと、キヨロとして居らつしやるも、御聲與の内より「駕籠を待てツ」と御聲を掛けながら、駕籠の扉が開くと否やを慥かに察付け、今光園公が茄子を拾つて居らつしやる御前、兩手を支へ、「宗（ヘー）御前様が大地へ兩手を支へて居らつしやるのを追駈け來た老婆が見ると、驚いて只體然この時光園公光某方は何處者やと尋ねられたが、私は伊達安藝宗俊に御坐います唯今般岡迄御等ね申せし所と云ふは實に最前餘り馳辛き茄子賣の苦みを救はんため、政治を執り居つたるが、未だ曾て一遍も人に詫言つたことがない光園今日と云ふ今日は彼の老婆に中譯がない事を致した、と云ふは實に最前餘り馳辛き茄子賣の手先助事には小見附かぬ事なり日曜衆の賑機を安じ奉り下は萬民入院隨意診察夜九時迄

皮膚科

皮膚病 疥癬病 膀胱病 生殖器 機能障礙

東京明治町四丁目元
佐藤醫院
電話一七七一番

日曜衆午午後二時迄

家の身として、腰を掛けるを云ふは怪しくならぬと、突如吹竹で頭を打たれた、誠に老婆の一言申し譯がない之れを老婆に遣はしてくれ」とサラ／＼と鼻根へ御認め遊ばしたのは「たゝかれて眠り覺めけり寶り時」

四月三日 卯戌年
舊三月十九日
本命一白北平先兄

商標 權者

大阪南堀江貳丁目

春田商店

藥料 堂製

診察時間

自午前九時
至午後六時

初診の御方は可成午前中

京城長谷川町一丁目(朝鮮銀行裏門前)

シメノウチ齒科醫院
電話八二番

人並り

總切町喉、迅速確實、に市内配達及び
地方通信販賣致居候
本城本町百貳號局前

諸御用
洋藥
賣藥
却問屋

醫療及試驗器械

山岸

藥品部
器械部

電話 二二六
二二七
二二八

お菓子の中^{うち}で一番^{ばん}
 滋養^{じやう}になつてお甘味^{かんみ}い

最新^{さいしん}最良^{さいりやう}の懷中^{かいちゆう}菓子^{かし}

眞正朝鮮
 人参應用

ホーカースキート

定價
 大 十四錢
 小 七錢
 送料各別

ホーカースキートは、麥^{あわ}の主成分^{しゆせいぶん}や此^この他種^{たしゆ}な滋養^{じやう}な滋養^{じやう}原料^{げんりやう}穀種^{こくしゆ}に、古來^{こらい}有名^{ゆうめい}なる眞正朝鮮^{しんせいちょうせん}人参^{じんじん}を應用^{えんよう}精製^{せいせい}してありますから、滋養^{じやう}分の豊富^{ほうふ}なる事^{こと}、驚^{おどろ}くばかり而も味^{あじ}は上品^{じゆんぴん}で、常^{じょう}に召上^{めいじやう}れば、胃腸^{ゐちやう}を堅^かへ音聲^{おんせい}を美しく身体^{ていし}を強壯^{きやうさう}に致します。

▼ 到る處^{いたるところ}の食料品店^{しきりょうひんてん} 菓子店^{かしてん}、藥店^{りやくてん}等にあり▲

東京和泉館

堀越 嘉太郎商店

銀座東五丁目五番八

母 子 分 別 送 之 節 是 也
 上 御 禮 由 上 候 御 贈 御 紙
 日 一 月 四

親 友 總 代 人 代 成
 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴
 釘 田 田 田 田 田 田
 梶 本 藤 恒 政 太 郎
 原 末 太 郎

成功の要訣 國分三亥

成功は偶然にあらず。努力以て自己の運命を掌握するを唯一の方法と爲す。世に稀に傑作の成功たきにあらざと雖も所謂傑作は之を求めて得べき果あらざる也。吾國善果あり、惡因惡果あるは天の法則なり。吾人は須らく善因を作り善果を得るの用意を怠る可らず。若し善因を作りて善は善果を収むる能はざるに於ては是れ天運也。天命也。吾人の取るべき方法を人事を盡して天命を待つのみは力に努力するに在らず。於て是乎吾人は成功の原因と其手段如何の間に修養の工夫は克己に在り。克己きに就れば其の得値をして第二性たらしむることを得べし。蓋し價の威力は眞に恐るべきものなり。吾人の精神は極めて謙敬にして刺戟に會せんか、其取値は益々増進せるに消滅せり。之を再びし、之をたばするに於ては遂に精神の質を形成するに至る。職務上に於ては熱心心の涵養亦此方に依りて精神的に打成し得べきは教を俟たざらん。

此一點に在り。惟ふに成功を望むものは先づ其成績を挙げざる可らず。其成績を挙げんと欲するものは先づ職務に忠實熱誠ならざる可らず。職務に忠實熱誠ならんと欲するものは宜しく其職務に趣味を感じずして然らば如何にして職務に趣味を感じすべきか。かく他なし、職務に對する理解力を涵養し、一應の知識と意力、

題に達せざるを得ず。子の耶が昔年諸君と共に考究せんと欲するは實に此一點に在り。

子は職務の成績を挙ぐるに消極的進んでして職務に關係なき娛樂及至他の趣味に傾するものは寧ろ之の勝れるに如かざるを信ぜず。此一點に於ては世に或は學者あるべきを期す。即ち子所言に於て昔年諸君の參考たるを得ば幸甚。

消極的工作に就いて述ぶる所あり

するに在り。理解力を得るの道は職務に執著するに在り。即ち職務に全力を傾注するに在り。之を通じ言へば職務に執著すれば理解力を得べく、理解力あれば趣味を感得すべく、趣味を感得すれば忠實熱誠なるべく、忠實熱誠なれば成績擧がらざらんと思ふを得ざるなり。是れ則ち成功に非ずや。故に知る、成功の第一歩は職務に執著するに在りと。されど人の性情各相異なる事猶ほ面貌の如く然り。熱し易きあり、熱し易からざるあり。熱し易くして冷め易きあり、熱し易からずして冷め易からざるあり。成功の道の解し易くして而かも成功者の数だ稀なるは此等性情に依るもの亦大なるものあるは争ふ可らざるの事實と爲す。然らば何に依つて吾人は執着の道を得べしと爲すか。曰く意思の強固に在り。夫れ人に知、情、意、あられ發しては則ち智、仁、勇と爲る。人若し知、情、徳に於て發達して意思之に伴はざらんか、所謂お人善しにして已

うとして疲勞と爲る。文字に在りてや極めて多端なり。文筆に在りてや詩歌、俳諧より變じて書畫、音楽に至り、運動に在ては狩獵、釣魚等の類あり。又は單に消閑の方法なきあり。暇へ來れば殆んど松花節、浪花節、露曲、笛曲、鼓曲、竹葉歌、一藝也。苟も一枝に通じ一藝せんと欲せば、人の精力の大半或は全部を之が爲めに吸収せらるゝの一事を忘る可からず。人の精力や限りに在り。限りに在るの精力を無限に用ひては、同時に職務と娛樂と併て二個の道を越はんとす。其例れば天性に伴ひたるを得ざるは、海に當然の結果であるなり。嗚呼、世に往々にして要する者あり。歌、俳諧、書畫、音樂、ならぬものなきが如く、

(頁八(世合を判タ))

發行所 合資東京城日報社
 電話 編輯部 二六五
 印刷部 二六六
 廣告部 二六七
 庶務部 二六八
 印刷部 二六九
 電話 二七〇

も多くの人は、皮相の観のみ、一カ
其處に於ける實際を知らず、
思ふ存に過ぐるものあらん。是れ想
象を遠くるに如かずと爲す所以也。
是は天子の意と之を告誡に行はんとする
は天子の意に非ず。人曲直より本石
を證し、神皇の啓蒙、神皇の教境と
一種の曲たらんことあり。要は

を欲せざる也。但し鍾と根とは啖噬
に執着するの必要條件ナリ。
人あり、ニュートンに同つて其大體
足の方法如何を問へる事アリ。ニュ
トン答へて曰く「靜思して止まらざ
りしが爲めのみ」と思ふて止まらざ
るの所謂執着なり。又云す曰く「其

程度如何に在るのみ。
終に臨んで一言すべき事あり。説に
「成功の秘訣は速、鈍、根の三者
にあり」と。子は通倫説を全盤否定す
るものにあらずる之に重きを置く

近頃、本當地を中心とし各地を遊覽致
候貴族の地にして別に新しき見の事
も無之振興共此の附近に最も多敷し

をなし精舎僧房皆片斷を岩間に刻す
に在れり是れ此地方の他地方に比
し雄壯壯麗なる石窟を信する理由な

大谷光瑞

二月十五日

村田旭仙筆

小松

韓韜乃吾之師也
百年戰國興亡事
征戈慷慨情
無師也

なる石窟等につき、御覽致せし情況を、御報申上げ候元來印度、兩期に安居する習慣を付し、大聖世尊在世の時も、梵帝山下の石窟に兩期を過せし事は、一再ならず且つ兩期のみならず、禪定三昧の靜寂なる生活をなさんとする時は、石窟は唯一の好隱處なりしものゝ如し故に王舍城靈鹫山（今のビハル及フリツツ省の中パトナ縣の南麓にあり）の如き天然洞穴に富める地は是を利用するに最も便利なりしならん後代佛教隆盛の時續に至るや、精舍僧房を刻するに至るも、石窟に禪定を爲さんとする比丘衆なきに非ざりしならん特に當地方一帯は兩期の窟窟なる多く安居の設備亦完全ならざるべからず加ふるに一般に武岩を噴出せる高崖の斷崖なるを以て最も天然洞穴に乏し故に此の地方に於て求めんと欲せは人工掘鑿に俟たざる可らず而して地上を掘鑿するや、鉦工を要し別に地下に精舍僧房を建設するの重費を要するを欲せざるにより拜て永久の國藝成用を營築して千載の色を榮はしむるありとす他地方は唯フリツツのカタツク縣に及べり壯麗なる石窟ありと雖も其他は盡く遠く及ばず此附近は其の數も亦多く小洞を合算すれば僅に一千に及ぶべし主として西ガート山を中心とし最遠はアジャンタ、エロラ等の兩所に及べり而して洞穴の使用は佛教徒のみならず印度教徒及びジャイナ教徒亦之を用ふ然れども其數に於ては佛教に及ばず而も多くは佛教に習ひや近代に確鑿せるもの多し

角讀する。其文字漢字に似て非なり。而して滿洲文字が漢字と異なるる程の相違を見ず。史に傳へ、女真始、契丹の漢人を獲るに及んで始めて女眞文字を製せしめ、契丹漢字に通ずる。契丹の年は我朝河天皇永樂二年に當る。今より一千八百餘年前なり。

「清原の千舟よりくる夕風に、障出松の聲をきく」とこの詞歌に、此地を「説したるもの」なるやを疑にしたるや、眞は神縣轉に屬し、渤海族の裔なり。渤海が千舟にじよるや、千舟の故説同江の西南に居る者は、眞舟にちて船したる少女眞と稱す。

夫の車に居る者は遂に従ふべし。之に希せず其地を國寶傳なりと爲す。生女眞の完顔部は古女眞と稱せり。生女眞の完顔部の長古撻靼が強く北條阿打達に寇を破り諸酋を召して國を建つ。號を大金と爲す。是れ實に金國の始なり。元氏代に於ては松花江の東、朝鮮にて高麗睿宗の時にも八百餘年前より九百自半を経て、遂に後元朝を起せる蒙古人の爲に已ばさる。時に我四條天皇の朝、朝鮮の高麗高宗の時にし

南、阿都無佛貴

今より七百年餘前に當る。北南の女
眞の碑は、其何れの時代に建設せら
れしものなるやを是を詳にせず。

翠巒漁村

翠巒石より海に沿うて北し遼湖あり、
遼河あり、遼川あり。遼川は石材を
以て著はる。遼湖は一海港に過ぎず
と雖も、山水甚だ明媚なり。漢海曲
りて深く陸に入り、輕騎時に波を逐
ひて行ち高岸を低し。左岸は山瘦
せ、所丈肉落ち骨中て屍骸を列す。
石嶺は則ち半島にして小丘連なる風
蕭々を發せしめて清風に颯たる風
聲を奏せしむ。奇麗之が足を爲して
愁慙中に臨みたる玉屏、撥かむ。松
下崖上に一路を通ず。人の來往脚即
に滿るゝ物を駈け紅を濺らすが如し
海邊まる所隙を負ひて水杵あり、茅
簍垂參差向背、家々竹竿を立てつ。是れ
即ち遼湖の漁村なり。遠く望めば綠
相倚り相排し帆檣の林立する所に似
たり。竿は明太魚を乾かす用に供せ
たるものなりと云ふ。余等の船登

せざる備後鞆津、土佐坂江の會遊を想
起して止まざりき。彼の翠巒は實に
北鮮の仙醉島、咸南の五臺山と稱す
べきなり。他日、閑あらば再び此地に
來り、蓬窓月を載せて魚鯉を伴ふと
し、長嘯吟詠、狷化童仙の遊を結にせん
かた。

鐵骨

之れに反して西洋各國の歴史は、
 殆んど慘酷なる戰事又は奇蹟を以
 て充ち、親和の友と稱して誇る北米
 諸國、其の僅か此の百餘年間にして
 國と干戈を交ふること四五度の多
 及、其の領土今日の如く廣大にな
 るる武力によるもの多し、特に歐
 支那の如きに至つては、例外に
 其の歴史はまるで戰死者の血を以
 て、其の歴史も同様に御座候

日本人は如何なる場合にも自ら戦争を起して干戈を執りたることなく平和を講はんが爲に戦争せざるを得ざるの餘儀なきに至りたるものに候

更に云へば日本人は二千五百七十年年といふ古き歴史を有すれども其間に外國と交戦したるは今回の日清戦争を加へて僅か五六回に過ぎや

而して其の戦争も皆或は帝國の利益を保つ必要上若しくは自衛防衛

己を得ずしてなしたるものに候。
 されば日清、日露戦争は申すに皮
 膚に止らず聯合國に味方して獨逸と戦ひた
 るも平和を勝はんが爲め、變きに帝
 政府が支那政府に對して帝政延期
 勸告したるも平和を勝はんが爲め
 して候。
 度申上候通り支那は支那人の支
 持に於ては共和政治にしようが、君主
 憲にしようが、勝つ專制國にしよう
 が、今は彼等の勝手次第なれども
 が爲めに同胞互に藩屬に因ぎ其
 結果支那の領土が分割離析するな
 云ふこと有之候。支那は遂に東洋の平
 を振亂し悉く帝國の存在を危うう
 ことに可相成候へば之れに對して
 國はどうして袖手傍觀する譯には
 參候三月廿八日

□一句づ、
 (二月の日の日吟詠を)
 鳥堂
 三月盡の疊にべたにすわれ 虎耳
 萬丈の塵下りる土屋 三月盡 自
 池

最新流行柄

手紙上手は一生の徳

會盛大町桂月先生完備せる「手紙講習集」は、今月の空集、人會、民衆、可本附會、中込込、大館、顧問、巖谷小波先生、て速成的、に、手紙、の、紙、を、原、料、に、添、削、あり、五、銭、全、部、一、圓、八、十、

手紙研究會

東京區高元馬場馬場
東京區八六六番

春着洋服地新著
子ルセ
大賣出し仕候

後藤男爵
宮家壽男氏
正金九十錢
送費八錢
東京

世界の野心的家

カイゼルの裏面

大坂阪屋號
大阪阪屋號
東京三三五
五七三
元

弊社は大阪清水榮次郎朝鮮總督府營林廠木材の大口取引契約を結ひ其業務は弊社に於て擔當致精々御便宜相計り可申に付御註文被下度候尙特約店も左の通り相定め置き候に付最寄り各店にて御買取被下度願上候

京城府黃金町

三井物産株式會社 京城支店木材部

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

大正政局變轉推移の遠因近因政黨分合消長の千波萬波其間に活動したる幾多政治家の一進一退微に入り細を穿ちて殺活縱横一世の耳目を驚倒す洵に是れ政局史論中の白眉也巨擘也

須藤南翠作
筒井年峰

藤南翠作
簡并年錄

野人、驚いて深く迷つた。武藏守も同く惑つた。紀伊守はくわつと眼を睨らして、
 「やあ清兵衛、秀吉に方入して家」の長久、子孫の繁昌を計れば、武勇を忘れた一言、この之則は承知ならねど、北畠殿我等を誣む作は思ふるればこそ、貴君の我意に抗つて、罪を結さうとはせらるゝのやあらぬに今初志の爲に御味方せずば、北畠殿は何となさるゝ足掻合手は
 築國を終へたる諸君や春風の嵐園に潮流れ行く白帆か茂春風に安房の顏の白き哉春風や驛路に馳し馬子の唄觀光に去年の如く切で哉親光に高節の人や春風の宿若布賣人よ込め唄な春風何れも何指さざる春風の天びもし憂給ひ湯波のあり在風や驛由緒日暮のふり鐵棍の足公平ぞ盛春風に

堀松天子墨

新刊紹介

▲前東洋正二全記(昭和四年) 矢野龍渓著、再興館出版、世界書局發行

[illegible][illegible]

波船行手、鴨飛、時雨頻と
並水統、歩街の時雨を鳥飛
帆滑車、音時雨、鳥影灯搖、
潮落を知る、時雨船揺えて、
同 同 同 同 同 同 同 同
糸瓜切、明、整理なり、書架
糸瓜棚繕へは、時計の鳴る隣
野分風と、糸瓜に下りの淋し庭
糸瓜棚に灯影洩る、坂下の家
同 同 同 同 同 同 同 同
圖信仰の歌び (二)
木の芽の 浮雲樓
こぐり入、果樹芽吹く、土を咽、
柿芽立つ書より、の葉来ね居り
木芽時雨、乾きならぬに出づ
庭木の芽に、素描の筆描き立つ
木の芽空の暮れ、きらぬ鐘鳴り、
椀木の芽吹く、樹梢に住めり、
家鴨に、なると、厨口に、木の芽風
木の芽もつる、傘の、輕き、行く
木の芽し、ひさし、こね、ぬるは、柳に
木の芽立つ、信仰、珠散る、ならし、ね
木の芽の間、なと、なと、まほうけたる

[illegible]

11月10日 11月19日

▲技術
中 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百